

契 約 条 項

(総則)

第1条 乙は、別紙仕様書に定めるところにより、本売却業務を完了するものとする。

2 乙は、この契約に明記されていない事項であっても、物件売却上必要な事項については、甲と協議の上決定するものとする。

(物件の所有権)

第2条 物件の所有権は、乙が代金を完納したときに、甲から乙に移転するものとする。

(代金の納入)

第3条 乙は、代金納入通知書に記載された納入期限までに代金を納付しなければならない。

(違約金)

第4条 乙は、前条の期限を遅延したときは、その遅延日数に応じ、契約金額に政府契約の支払遅延防止等に関する法律(昭和24年法律第256号)第8条第1項の規定に基づき財務大臣が定める率と同率(年当たりの割合は、閏(じゅん)年の日を含む期間についても365日当たりの割合とする。)で計算した金額(100円未満であるときは、その金額を切り捨てる。)を遅延違約金として、甲に納付しなければならない。

(協議による解除)

第5条 甲は、必要があるときは、乙と協議の上、この契約の全部又は一部を解除することができる。

(契約の解除)

第6条 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当するときは、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、契約を解除することができる。ただし、その期間を経過したときにおける債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。

- (1) 契約を履行しないとき又は履行の見込みがないと甲が認めたとき。
- (2) 乙から甲に対して、契約の解除の申出があったとき。
- (3) 文京区契約事務規則(昭和39年4月文京区規則第11号)に違反したとき。
- (4) 前各号のほか、乙又はその代理人がこの契約条項に違反したとき。

(権利の譲渡等の禁止)

第7条 乙は、この契約により生じる権利義務を第三者に譲渡し、又は担保に供することができない。ただし、甲の承諾を得たときは、この限りでない。

(一括再委託の禁止)

第8条 乙は、この契約の履行に当たってその全部又は主要な部分を一括して第三者に委任してはならない。ただし、甲の承諾を得たときは、この限りでない。

2 乙は、この契約の一部(主要な部分を除く。)を第三者に委託しようとするときは、委託する業務の範囲、委託先その他必要な事項について、あらかじめ書面により甲に申し出て、甲の承諾を得なければならない。

(契約書を電磁的記録により作成する場合における契約の効力)

第9条 契約書を電磁的記録により作成する場合において、この契約は、甲及び乙が電子署名(電子署名及び認証業務に関する法律(平成12年法律第102号)第2条第1項に規定する電子署名をいう。)の措置を行った日にかかわらず、当該契約書の契約確定年月日の欄に記載する日に確定したものとみなし、当該日から効力を有するものとする。

(疑義の決定等)

第10条 この契約条項の解釈について疑義が生じたとき又は契約条項に定めのない事項については、その都度甲乙協議して決定するものとする。

重要情報の取扱いに関する特記事項

(基本的事項)

第1条 乙は、この契約による業務を処理するため重要情報を取り扱う場合は、個人情報等の保護に関する法令並びに文京区情報セキュリティに関する規則（平成15年6月文京区規則第50号）及び文京区立教育機関等情報セキュリティに関する基本方針（2025文教教第2708号）を遵守し、又はその趣旨を尊重して、適切に取り扱わなければならない。

(定義)

第2条 この特記事項において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 重要情報 文京区行政情報管理規則（平成25年1月文京区規則第75号）第28条第1項に規定する秘密文書に含まれる情報及び個人情報等のほか、文京区情報公開条例（平成12年3月文京区条例第4号）第7条第1項に規定する非公開情報をいう。
- (2) 個人情報等 重要情報のうち、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）第2条第1項に規定する個人情報及び行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第2条第9項に規定する特定個人情報をいう。

(秘密の保持)

第3条 乙は、この契約による業務に関して知り得た重要情報の内容をみだりに他に漏らし、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

2 乙は、この契約による業務の従業者又は従業者であった者についても、前項の規定による義務を遵守させなければならない。

(目的外利用等の禁止)

第4条 乙は、この契約による業務を処理するため甲から引き渡された重要情報を、この契約の目的以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(作業場所の報告)

第5条 乙は、甲の求めに応じ、重要情報を取り扱う場所（以下「作業場所」という。）を定めなければならない。

2 乙は、甲の求めがあったときは、前項の作業場所を甲に報告しなければならない。

(規定の整備)

第6条 乙は、個人情報等を適切に取り扱うため、安全管理に関する規定等を整備しなければならない。

(管理責任者等の報告)

第7条 乙は、甲の求めに応じ、重要情報の取扱いに係る管理責任者（以下「管理責任者」という。）及び作業従事者を定めなければならない。

2 乙は、甲の求めがあったときは、前項の管理責任者及び作業従事者を甲に報告しなければならない。

3 乙は、管理責任者及び作業従事者を変更しようとするときは、事前に甲に申し出て、承諾を得なければならない。

4 管理責任者は、重要情報の適正な管理及び安全確保を図るとともに、仕様書等に定める事項を適切に実施するよう作業従事者を監督しなければならない。

5 作業従事者は、管理責任者の指示に従い、仕様書等に定める事項を遵守しなければならない。

(教育の実施)

第8条 乙は、作業従事者に対して適切な重要情報の保護及び情報セキュリティに関する教育並びに緊急時対応のための訓練を計画的に実施し、必要な知識を習得させるものとし、甲の求めがあったときは、その実施状況を報告しなければならない。

(再委託)

第9条 乙は、この契約による業務に係る重要情報の処理を自ら行い、甲が承諾した場合を除き、第三者（乙の子会社（会社法（平成17年法律第86号）第2条第3号に規定する子会社をいう。）を含む。以下同じ。）にその処理を委託してはならない。

2 乙は、この契約による業務に係る重要情報の処理について、再委託により実施する必要があるときは、当該

(文京区標準契約約款 売却)

再委託先の名称及び所在地、委託内容、委託理由、安全管理措置、再委託先に対する管理並びに監督の方法等について事前に書面等により甲に申請し、承諾を得なければならない。

3 乙は、前項に規定する承諾を得て再委託を行う場合は、再委託先にこの契約の内容を遵守させ、再委託先の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。

(持出しの禁止)

第10条 乙は、この契約による業務に係る重要情報を作業場所以外に持ち出してはならない。ただし、個人情報等を除く重要情報であって、甲の承諾を得たものについては、この限りでない。

(搬送及び授受)

第11条 乙は、この契約に係る重要情報を搬送し、及び授受する場合は、暗号化、パスワード設定等の保護対策、鍵付きのケース等に格納する等の重要情報の紛失及び不正利用を防止するための安全管理措置、運搬に当たってのセキュリティ便の使用等の紛失リスクの低減対策等を実施しなければならない。

2 乙は、重要情報を搬送し、及び授受するに当たっては、運搬、保管・管理、廃棄等の各段階におけるその保護対策の状況、安全管理措置の状況等に関する記録及び適正な状況であることの確認を行った記録を残し、甲の求めに応じ、報告しなければならない。

(複写又は複製の禁止)

第12条 乙は、この契約による業務を処理するため甲から引き渡された重要情報を、甲の承諾なくして複写し、又は複製してはならない。

2 乙は、この契約による業務を実施する上で、やむを得ず重要情報を複写し、又は複製するときは、あらかじめ甲の承諾を得なければならない。この場合において、乙は、当該業務の終了後に、直ちに複写し、又は複製した重要情報の電磁的記録の消去及び印刷物の廃棄（以下「消去等」という）を行い、利用、再生又は再利用ができない状態にしなければならない。

3 乙は、前項の規定により重要情報の消去等を行ったときは、消去等の日時、方法、場所等を記載した書面等により甲に報告しなければならない。

(保管及び管理)

第13条 乙は、重要情報の保管及び管理について、安全管理上必要な措置を講じ、重要情報の漏えい、滅失又は毀損等の事故を防止しなければならない。

(重要情報の返還及び消去等)

第14条 乙は、この契約が終了したときは、この契約による業務を処理するため甲から引き渡された重要情報について、甲の指定した方法により返還又は消去等を行わなければならない。

2 乙は、この契約による業務において利用する重要情報の消去等を行ったときは、消去等の日時、方法、場所等を記載した書面等により甲に報告しなければならない。

(電子情報処理機器の修理又は廃棄)

第15条 乙は、この契約による業務で使用するサーバ、パソコン等の機器（以下「電子情報処理機器」という。）を修理し、又は廃棄するときは、次に掲げるいずれかの措置（当該措置を行うことが困難な場合にあっては、甲に協議の上で承認を得た方法による措置）を行うことにより、事前に当該電子情報処理機器に保存されている重要情報を消去し、再生又は再利用ができない状態にするとともに、これらの措置をした日時、方法、場所等を記載した書面等により甲に報告しなければならない。

(1) 記録装置の物理的又は電磁的な破壊

(2) 電子情報処理機器に保存されている重要情報を消去し、再生又は再利用ができない状態にする措置

2 甲は、必要があると認めたときは、乙が前項に規定する措置を行う際に立ち会うことができる。

(立入調査等)

第16条 甲は、必要があると認めたときは、乙がこの契約による業務の処理に関して取り扱う重要情報の管理状況等について、立入調査をすることができるものとし、乙は、原則としてこれに応じなければならない。ただし、立入調査を行う場所へ乙以外の者が立ち入ることを禁止している場合その他立入調査を行うことが困難であると認められるときは、重要情報の管理状況等に係る調査の方法について、甲乙協議の上決定するものと

する。

2 甲は、この契約による業務の処理において必要があると認めるときは、重要情報の取扱いについて、乙に対して必要な指導及び助言を行うことができる。

(報告義務)

第17条 乙は、甲の求めに応じ、書面等により重要情報の管理状況、この契約による業務の履行状況等について甲に報告しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、乙は、この契約による業務について次に掲げる事象が発生した場合（当該事象のおそれがある場合を含む。）は、直ちに甲に報告し、その指示に従わなければならない。

- (1) 重要情報の漏えい、紛失、滅失又は毀損
- (2) 重要情報の改ざん
- (3) 不正アクセス
- (4) 前各号に掲げるもののほか、情報セキュリティに悪影響を及ぼす事象

3 前項の報告義務は、この契約が終了した後も同様とする。

(公表、損害賠償及び契約解除)

第18条 甲は、乙がこの特記事項の規定に違反した場合は、その事実を公表することができる。

2 乙は、その責めに帰すべき理由によりこの特記事項の規定に違反し、甲又は第三者に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。乙の責めに帰すべき理由による重要情報の漏えい、滅失又は毀損等の事故により甲又は第三者に損害を与えたときも、また同様とする。

3 乙が、その責めに帰すべき事由により、この特記事項に違反したときは、甲は、この契約を解除することができる。

契約における暴力団等排除措置に関する特記事項

(総則)

第1条 この特約は、この特約が添付される契約と一体をなす。

(用語の定義)

第2条 この特約において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 甲 発注者である文京区をいう。
- (2) 乙 文京区との契約の相手方をいう。乙が特定建設共同企業体、事業協同組合等であるときは、その構成員全てを含む。
- (3) 暴力団 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴対法」という。）第2条第2号の暴力団をいう。
- (4) 暴力団員 暴対法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。
- (5) 暴力団関係者 暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者をいう（この特約においては、暴力団員には暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者を含む。）。
- (6) 不当介入 不正な利益を得る目的で暴力団関係者が行う行為で、事実関係及び社会通念等に照らして合理的理由が認められない不当又は違法な要求、妨害その他契約内容の適正な履行を妨げる一切の不当又は違法な行為をいう。
- (7) 法人の役員又は使用人 個人事業主、法人の代表者及び法人の役員（役員として登記し、又は届出されていないが、実質上経営に関与している者を含む。）又は支店若しくは営業所を代表する者並びに直接雇用契約を締結している正社員をいう。

(乙が暴力団関係者であった場合の甲の解除権)

第3条 甲は、乙が各号のいずれかに該当するときは、直ちにこの契約を解除することができる。この場合においては、何ら催告を要しないものとする。

- (1) 法人の役員又は使用人が暴力団員であるとき又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

(文京区標準契約約款 売却)

- (2) 法人の役員又は使用人が業務に関し、不正に財産上の利益を図るため又は第三者に損害を加えるために暴力団又は暴力団員を利用したと認められるとき。
- (3) 法人の役員又は使用人が暴力団又は暴力団員に対して、直接若しくは間接的に金銭、物品その他の財産上の利益を与え、便宜を供与し、又は暴力団の維持若しくは運営に協力したと認められるとき。
- (4) 法人の役員又は使用人が暴力団又は暴力団員と社会的に非難される関係を有していると認められるとき。
- (5) 法人の役員又は使用人が下請契約、資材及び原材料の購入契約等に当たり、その契約の相手方が前各号のいずれかに該当する者であることを知りながら、当該契約したと認められるとき。

2 乙が前項各号のいずれかに該当したときは、甲が契約を解除するか否かにかかわらず、乙は、契約金額の10分の1に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。この場合において、乙が共同企業体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に違約金の請求をすることができる。

(暴力団等を排除するための連携)

第4条 甲及び乙は、警察と連携し、この契約に不当介入しようとする暴力団及び暴力団関係者を排除するために必要な情報交換又は捜査協力等を行うものとする。

(不当介入を受けた場合の措置)

第5条 乙は、この契約の履行に当たり、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 本契約に関して、暴力団又は暴力団関係者から不当介入を受けた場合は、き然として拒否し、速やかに甲に報告するとともに、警察に届け出ること。
- (2) 下請負人又は再受託者がある場合において、当該下請負人又は再受託者が暴力団又は暴力団関係者から不当介入を受けたときは、き然として拒否し、乙に速やかに報告するとともに、警察に届け出るよう当該下請負人又は再受託者を指導すること。